

京林大だより

No.48



絵：卒業生 熊走君



令和元年度京都府立林業大学校
卒業証書授与式



祝 7期生卒業



答辞

春を予感させる暖かな雨が降る中、3月10日林業大学校第7期生12名の卒業式が和知ふれあいセンターでとり行われました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、御来賓の方々の参加を取りやめ、時間短縮を余儀なくされました。しかし、卒業生達は先生や保護者が見守る中、堂々とした面持ちで只木校長から卒業証書を受け取り、晴れやかな気持ちで式を終えることができました。

また、式の終了後、全員で校長先生と一緒にシラキを植樹し、記念写真を撮りました。きっと良い思い出になったと思います。

地元の皆様には、入学式からずっと暖かく見守っていただき、学生たちにとって和知は第2の故郷になったことと思います。



卒業証書を受け取る卒業生

卒業研究発表会

卒業研究では、学生自身が森林や林業の課題を見つけ、その改善策や解決策を考え論文にまとめます。その成果を2月18日、卒業研究発表会で発表しました。

公共人材専攻は「京丹波町の広葉樹の可能性」というテーマで、京丹波町の森林資源の活用を考え、様々な広葉樹材を使ったつみきを提案しました。

林業専攻の学生は「ニホンジカの被害対策」や「ロープ上げの研究」など、実習やキャップストーン研修で感じた疑問から聞き取り調査や実験に取り組み、解決策を発表しました。

卒業研究に関わっていただいた森林組合職員の皆さんをはじめ、多くの方々の御協力で卒業研究発表会を行うことができました。ありがとうございました。



公共人材専攻の発表

地域貢献活動で 林大生が木育

2月17日に和知小学校で木育に関する授業が行われ、林大8期生有志6名が木製ラック作りのお手伝いをしました。

この授業は小学4年生の総合学習の一環として、地元で伐採された間伐材の製材を見学した後、その板を使った木工品制作までの流れを、小学校と京丹波森林組合とのコラボで行われており、その学習に今回林大生も参加させていただきました。



【小学生に教える8期生】

今月の授業参観

『インターンシップ研修』

入学後まもなく1年が経とうとしている8期生15名が、今年も府内7つの森林組合でインターンシップによる職業体験を行いました。

研修期間は3月2日～6日の5日間。林大職員が研修先を訪れると、学生たちは組合指導者から丁寧に作業方法の指導を受けていました。

作業内容も5日間で、できる限り様々な業務を体験できるよう日程を組んでいただいております。学生にとっては刺激的で貴重な体験となりました。



マンツーマンで伐採指導を受ける8期生



校長室より

プラスチック廃棄物問題

校長 只木良也

心配される地球と人類の将来、気候変動（本欄44号、47号など）に加えて、プラスチックごみ（プラごみ）問題も、今、世界的な心配事の一つです。軽量・加工容易、丈夫で「腐らない」プラスチックは、レジ袋やペットボトルを始め、車や建築資材など多方面に利用されてきましたが、その廃棄物が海洋を汚し、生態系に与える影響がそれです。

プラスチック、その多くは使い捨てでした。ポイ捨てされたプラごみは、風に飛ばされ川に流され、やがて海に至ります。その量は年間800万トンとも言われ、既に海に存在しているプラごみは1億5000万トンとか。増えたプラごみは海で微細化し（マイクロプラスチック）、プラスチックそのものやそれに付着する有害物質により、海は汚染され、海に生きる生物に悪影響を及ぼします。それが、海洋生物を食物と

する人間達の身体・健康に影響を与えるのは当然のことです。プラスチックの売り物であった「腐らない」ことが、その処置に悩む結果を生んだのでした。

今、プラスチック廃棄物の問題、出来るだけそれを減らそうということは、世界的課題です。京都府も「府民だより466号(2020年2月)」の「環境を守る行動始めよう」という特集ページで、プラごみ削減のために「持とう！マイバッグ・マイボトル」と呼びかけています。

昨年暮れに、英国ロンドンへ参りました。そのスーパーマーケットの野菜・果物売り場で、こんな掲示を見付けました。

【No more single-use plastic bags】

“single-use”は一回だけの使用、つまり「使い捨て」でしょうから「プラスチック・バッグの使い捨ては止めよう」という呼びかけだと思っております。そこで気付いたのは、“no more”の語。これを“No more Hiroshimas”から覚えた我々の世代には、それは「この過ちは二度と繰り返さない」意思を表すものと聞こえるのです。とすれば、すごい、素晴らしいフレーズだと…